

# 埼玉県学力・学習状況調査に係る効果的な取組事例（中学校・英語）

蓮田市立黒浜西中学校

## 1 本校の概要

### (1) 埼玉県学力・学習状況調査の結果等

学年	伸びた層			本事例で取り上げた領域			左記以外に取り上げた主な取組
	上位層	中位層	下位層	聞くこと	読むこと	書くこと	
3			○	○	○	○	定期テスト、パフォーマンステストの共通理解、共同作成

※ 「伸びた層」は、一番伸びた層に『○』。各層において同じ伸びの場合は、複数の層に『○』。

### (2) 伸びた結果の要因、背景

- ・ 授業規律の徹底 チャイム着席・挨拶や返事の徹底・話す人を見て聞くなど（学年、学級との連携）
- ・ 基礎の徹底（2の具体的な取組参照）

## 2 具体的な取組

### (1) 教育委員会との連携による取組

- ・ 授業の始めに「ねらい」の提示、最後に「ねらい」に照らしての「振り返り」の実施



【スライド活用場面】

### (2) 本校独自の取組

- ・ 定期テストやパフォーマンス・テストに関する内容・方法の教科担当者間の共通理解、共同作成
- ・ 2人～3人組（ALTやJTE同士）のT.Tによる机間支援、作文チェック等
- ・ Q&A、気付きや理解を深める場面でのペアやグループでの学び合い学習
- ・ 基礎の徹底

→授業の Warm-up の帯学習として、1年教科書本文のディクテーション、1,2年の重要文を用いた会話練習、不規則動詞の活用、平易な長文の速読、リスニング活動等を継続して行っている。定期テストの「言語の知識・理解」に関する問題は基礎的な内容なので、徹底を図るために、全生徒を対象に同じ問題で再テストを実施している。新出文型の導入やまとめは、既習事項と新出事項を対比させ、スライドまたは板書で行っている。また、セクション毎の授業用ワークシートを工夫し、授業や家庭学習で音読の重視をしている。さらに、スピーチの取組では、英語が苦手な生徒でも作成や発表ができるように先輩のスピーチ映像や原稿をモデルとして提示した。中・上位の生徒はよりよいスピーチの目標となった。

## 3 成果と課題

### ○生徒の伸びた姿について

- ・ 教員の見取りから

学年・学級での生徒指導、人間関係・雰囲気づくりが授業の基盤となっている。担当者による毎授業の授業評価が教科担当→係→学級全体・学級担任に伝わるシステムが確立され、授業規律の徹底に大いに役立っている。

また、男女を問わずにペアやグループで楽しく活動したり、級友のスピーチを温かい雰囲気でも聞いたりする雰囲気ができているのも、学年・学級経営が充実しているためである。英語の授業においても、間違えを恐れずに積極的な態度でコミュニケーションを図るためには、このような雰囲気は非常に大切であるので、今後も保っていけるように心がけたい。

・アンケート結果から

3年2学期末に「楽しい学習活動」、「役に立つ学習活動」についてのアンケートを実施した。授業中の活動で多くの生徒が「楽しく、役に立つもの」として挙げたものは、「ペアやグループでの共同学習」、「ビンゴ・ゲーム（単語・文）」「1，2年の基本文を用いた会話練習」「不規則動詞の活用等の練習」「セクション毎のワークシート」「作文を書く活動」「音読の徹底」「T.Tによる個別指導」だった。

また、学校外では、「塾」「英検へのチャレンジ」が挙げられていた。3学年全体での英検取得率は4級以上が43.8%、3級が24%、準2級が12.5%だった（平成28年12月現在）。

○分析結果を受け、これからの実践に向けての課題

結果として「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の基礎の底上げはできてきた。しかし、塾等に頼らずに自学自習のできる、「自立した学習者」は極めて少ない。また、「話す力」も含め、コミュニケーションの道具として通用する英語力を目指し、更に指導と評価の改善を工夫していきたい。

楽しい学習活動、役に立つ学習活動（調査人数93人、複数選択も可）

